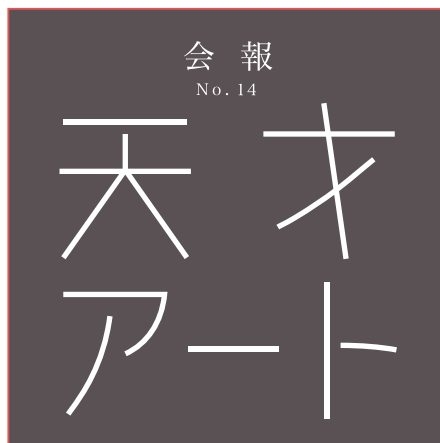


天才アートKYOTO



天才アートとは、障碍のある人の多くがもつ優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的なアート作品に対して、特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構がネーミングしたものです。欧米ではアール・プリュット、あるいはアウトサイダー・アートなどと呼ばれています。当機構は天才アートを推進し、その啓発活動を行っています。



発行日 2017年7月25日（火）

発行者 特定非営利活動法人
障害者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒605-0811
京都市東山区大和大路四条下る
4丁目小松町 四条・新道アトリエ
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto

編集 株式会社 三六六

天才アート

検索



『始まりの海と終わりの空』若林 義輝 Yoshiki WAKABAYASHI 色画用紙・色エンピツ 540×394mm 2017年

展 覧 会

予 告

天才アート展2017は 前・後期、2会場で開催!!



東アジア文化都市 2017 京都
CULTURE CITY OF EAST ASIA 2017 KYOTO

展 覧 会

報 告

2012年より毎年開催している『天才アート展』第6回目となる2017年度は、9月の前期展と10月の後期展の2回にわたり、2つの会場において開催します。2回、2会場になることで、これまで以上に充実した展示が実現します。また、同展は「東アジア文化都市2017京都」の連携事業で、京都の伝統産業や企業とコラボした商品も展示販売いたします。ご期待ください。

前期展（9月21日～10月1日）のテーマは『Endless and Breath』で、中京区にある「ウイングス京都」が会場となります。

「ウイングス京都」は、本年6月からギャラリーを新設工事中で、本展は「ウイングス京都ギャラリースペースオープニング記念展」となります。同ギャラリーは、ワンフロア240㎡の無柱空間が特長で、これまでにない展示形態を計画しています。

後期展（10月27日～11月8日）の会場は、従来から継続して利用している「堀川御池ギャラリー」です。なお、後期展では「障害者芸術の振興にかかわる諸問題（仮題）」をテーマに「シンポジウム」を併催いたします。

文化庁京都移転に向けて地域文化創生本部が東山区に開設され、障害者の芸術振興が重点施策の一つとされています。シンポジウムではこうした点も含め、幅広く論議を展開する予定をしています。

【前期展】 入場無料

ウイングス京都ギャラリーオープニング企画

展『Endless and Breath』

9月21日（木）～10月1日（日）

11時～18時／27日（水）は休館

ウイングス京都ギャラリー…京都市中京区東洞院六角下る御射山町262

【後期展】 入場無料

『天才アート展2017』

10月27日（金）～11月8日（水）

11時～18時／月曜日休館

堀川御池ギャラリー…京都市中京区油小路通御池上る押油小路町238-1

【シンポジウム】 入場無料

『障害者芸術の振興にかかわる諸問題（仮題）』

* 障碍のある人の独創的なココロの芸術をどう呼ぶべきか

* 作品のマーケットをどう創出すればいいかなど

10月28日（土） 14時～16時30分

会場…京都市立京都堀川音楽高等学校

「城巽アリーナ」堀川御池ギャラリー北隣

〈講師〉

松坂 浩史（文化庁地域文化創生本部事務局長）

建畠 哲（埼玉県立近代美術館館長・

京都芸術センター館長）

服部 正（甲南大学文学部准教授）

高島 寛（NPO法人障害者芸術推進研究機構）



堀川御池ギャラリーの外観



ウイングス京都の外観

COCON KARASUMA 3F
〈Kara-S〉と「天才アート展」開催

京都精華大学が運営するサテライト施設《Kara-S》にあるギャラリーで去る4月4日（火）から同16日（日）まで「天才アート展」が開催されました。

京都の中心地・烏丸四条にあるショッピンモール COCON KARASUMA 3階の通路面ガラス張りの白いオシャレなギャラリーには、壁面に高島晃平、富田晃生、前田笑弥、中央フロアに石原寛子、加藤武晴の5名のアーティストの作品が展示されました。来場者は初めて作品を目にするショッピン客がほとんどで、新鮮な感覚に驚きの声が聞かれました。

現在は、この展覧会を機に同サテライト施設のショッピンで天才アートの作品の複製画《Tensai Art R》が販売されています。



「いきいき春の文化祭」に参加

「いきいき春の文化祭」アール・ブリュットとの出会いととの出会い」と題したイベントが、去る4月29日(日)に左京東部いきいき市民活動センターで開催されました。この催しは「文化庁京都移転・私たちができること推進チーム」の活動の一環で、チームの一員である「天才アートKYOTO」もその運営に参加しました。

プログラムはステージ・パフォーマンス、アール・ブリュットと児童造形をテーマにしたトークセッション、児童造形のワークショップや作業所で制作された物品の販売など。「天才アートKYOTO」はセンター内での作品展示とアートグッズの販売を担当しました。

作品は、エントランスと階段まわりに9点のほか、アーチスト別のアートポスター10点を2階の廊下に展示しました。まるでセンター内は天才アート作品のギャラリーのようでした。作品展示は引き続き5月14日(日)まで継続され、文化活動などで当センターを利用する地域の大勢の方々に楽しんでいただき、好評に終始しました。



第3回企画展「非形態の表象」&シンポジウム終了 Report

会報13号でもご案内した第3回企画展「非形態の表象」を6月1日(木)〜11日(日)、シンポジウムは6月3日、いずれも堀川御池ギャラリーで開催しました。

本展では、当機構の新道アトリエ、ならびに京都府内のアート制作に注力している障碍福祉就労施設から、計10人の作家の参加を得て、絵画などの平面作品94点、オブジェ2点の作品を展示しました。作品は、①心象が非定型に描写される個性的作風、②持続する制作エネルギー、③というテーマに沿って選定。これは、障碍のある人の中でも、とりわけ際立つ制作・表現スタイルであるといえると思われまふ。5年にわたり必ず画用紙の両面に数百枚も描き続けられている作品、セロハンテープを巻き付けてパイプ状にして「増殖する」オブジェを10年近く制作し続けている作者など、その独創的製作スタイルと持続エネルギーは、来場者に「発見」や「感動」を呼び起こし、魅了したことは、アンケートからうかがい知ることができました。

多くの参加者が活発に論議を展開

シンポジウムは、6月3日(土)午後2時より4時30分、同じ館内のギャラリーB室にて、甲南大学の服部正先生を講師に迎え、「アール・ブリュットの支援概念」のテーマで、スイスの伝説的画家アドルフ・ヴェルフリの一生とその作品を紹介しながら、アール・ブリュット概念や近年の日本の動向と課題など、刺激的な問題提起もなされました。

その後、座談会に移り、当機構高島理事長と同重光副理事長が加わり、基調講演を踏まえながら、日本における障碍者芸術の推進・支援の在り方や現状と問題点、今後の進展に向けた課題など、フロアからの活発な意見も交えて論議が進み、予定を30分近くオーバーして終了しました。



『企画展「非形態の表象」&シンポジウム』

- ・来場者総数…857人(会期10日)、うち海外観光客等49人
- ・アンケート回答…201人
- ・シンポジウム参加者…68人(定員65人)



トピックス

レポート

「京都文化力プロジェクト 推進フォーラム」会場にて ホワイエ展示

平成29年4月26日（水）、「京都文化力プロジェクト推進フォーラム」がロームシアター京都サウスホールで開催され、ホワイエ展示



で天才アーティストKYOTOの作品を展示しました。作品をデザイン化したポストカード、クリアファイル、風呂敷の販売も好評でした。

SCREEN HD様で 複製画レンタルをスタート

平成29年4月26日（水）、京都に本社のある半導体・液晶製造装置や印刷関連機器などの産業用機器製造の株式会社SCREENホールディングス様に、CSRの一環として複製

画レンタルの契約をしていただき、作品5点が納入されました。

東京都江東区に新たに開設された門前仲町事業所の受付や会議室

などに、5点の作品を半年ごとに2年間、合計20作品を掲示していただきます。これを契機に、本社地区のロビーなどに原画レンタル契約の締結も進んでいます。
今後は他の企業やホテルなどにも採用の働きかけをしていく予定です。

文化庁地域文化創生本部 に作品掲示!!

文化庁の京都移転に向けて、本年4月に東山区に開設された「地域文化創生本部」。その長官室に当機構所属作家の作品が掲示されています。5月に同本部を表敬訪問した折、持参した「会報12号」の表紙作品を見られた松坂事務局長がこれに気に入られ、長官室に飾っていただくことになりました。
6月20日（火）より高島晃平さん「スズメ」（画用紙・クレパス／790×1,100）と、楠川敦士さん「三日月を取りに行く宇宙船」



アーティスト・トピックス

★下嶋千佳さん、法然院にてスタンダード・ジャズ・ライブ

平成29年5月3日（水）、法然院にて下

嶋千佳さん（ピアノ）が、勝方浩さん（ベース）とバンド「Chika'su」を組んでスタンダード・ジャズ・ライブを開催されました。



法然院では、5月3日から5日まで「第13回悲願会」（詳細は法然院ホームページ <http://www.honen-in.jp/N-0295-j.html>



（画用紙・クレパス／790×1,100）の2点を無償で提供しています。

写真は、7月10日（月）に地域文化創生本部を訪問し、自作の前でポーズする高島さん（上）と楠川さん（下）。

をご覧ください）が行われ、スタンダード・ジャズ・ライブはそのプログラムの一環として実施され、アンコール含めて全7曲演奏されました。下嶋さんは、写実的な絵画やマンガ、アニメーションを制作され、また、コスチュームのデザインと縫製もこなされます。そして、音楽では、ピアノの演奏や作曲と多才で、まさに天才にふさわしい才能の持ち主です。

今後、その下嶋さんの多彩な表現の世界を広くご紹介していきたいと思えます。

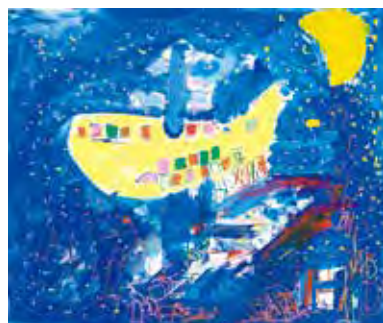
★楠川敦士さん、共振×響心〜時を掘る〜

「ビッグ・

アイアクトプロジェクト入選作品展」が、この夏大阪市に巡回開催します。

国内外

の応募作品1,392点の内、入選作50点を展示。当機構所属作家・楠川敦士さんの入選作「夢を乗せて」（20号キャンバス）が展示されます。



会場「ハービスEAL」小ホールハービスOSAKA B2E（大阪市北区梅田2-5-25）JR大阪駅徒歩7分・阪急梅田駅徒歩12分ほか地下鉄・阪神あり

会期：2017年8月8日（火）〜12日（土）11時〜20時（最終日は15時）

*詳細はビッグ・マイHD： <http://big-i.jp>

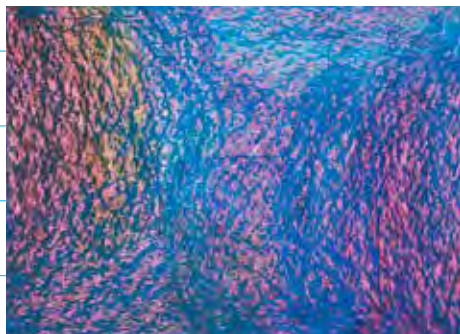


「クレパスのグラデーション」画用紙・クレパス 2016年



「クレパスのグラデーション」画用紙・クレパス 2016年

川嶋 誉大

TENSAI
ART
NOTE
天 オ
ア ア
ー ト
ノ ー ト


「クレパスのグラデーション」画用紙・クレパス 2016年

川嶋 誉大 Yoshihiro KAWASHIMA 1996年生

川嶋の制作手法は、クレパスを横にして色画用紙にこすりつけるというものである。これをいつ覚えたのか定かではないが、京都市立総合支援学校の中学部時代、「きんゴゴ」という自由制作の授業を選択してから知られるようになった。このスタイルでの制作ですでに7年を経過し、作品は200点ぐらになっている。クレパスをこすりつける感触を楽しんでいるようにも見えるが、クレパスの色を変えながら絶妙なグラデーションに仕上がっている。しかも必ず紙の表裏両面に描いているのが特徴でもある。



知原 諒太

「知原の色・形・memo」画用紙・アクリル絵の具・色エンピツ 2017年

知原 諒太 Ryota CHIHARA 1999年生

知原は、数字、文字、そして形にこだわりを持っている。数字であれば、「84.2」「86.9」などのように小数点が付く。文字であれば「あなたにサラダ」「オレドン」などのフレーズ。「HIC113 7.19」のような組み合わせもある。形は、楕円が変形したような、不思議に安心感を与えるようなものが多い。画面上にこれらが無造作なデッサンのように描かれたり、画用紙の両面に描かれたりすること多い。



「知原の色・形・memo」画用紙・アクリル絵の具・色エンピツ 2017年

根ヶ山 恵司



「四獣(北)玄武」画用紙・サインペン・カラー筆ペン 2017年

根ヶ山 恵司 Keishi NEGAYAMA 1996年生

根ヶ山は、ひとつのモチーフ（それは、犬、昆虫、恐竜、魚、メカロボットと多岐にわたる）を必ず姿態や意匠をさまざまに変化させて、「シリーズ」のように連作することが多い。例えば子供の時に誕生日祝いでもらった犬のぬいぐるみをモチーフとしたときには、実に80枚に達している。作品を並べると、その色調や意匠の変化と連続性が、観る者になぜか安心感とワクワク感のようなものを与える。



「九尾(キメラ)」画用紙・サインペン・カラー筆ペン 2017年



「メカイルカ」画用紙・サインペン・カラー筆ペン 2017年



「エターナルスリープバタフライ」画用紙・サインペン・カラー筆ペン 2017年

千佳に聞いてみたいこと…聴覚Ⅱ音の世界

下嶋篤

下嶋千佳は5歳の時に「小児自閉症」と診断され、呉竹総合支援学校高等部を卒業して、現在、京都市ふしみ学園「アトリエやつほう!!」に通うと共に、土日に天才アーティストKYOTOでお世話になり、漫画制作をしている。

千佳が生まれて24年あまり、いろいろな経験をしてきているはずだが、その経験がどのようなものであったか、今どんな状況かについて、千佳に直接尋ねるということほとんどしてこなかったように思う。そこで、本稿を書くのを機に、一度それやってみようと思い立った。おりしもNHKスペシャル「発達障害く解明される未知の世界」で、学習障害をもつ成人から直接、自身の体験や自身の障碍に関する考えを聞き取るという調査が報告されており、それを観て触発された面もある。

そこで、本稿では、私なりの方法で千佳にアンケートとインタビューを行った結果に基づいて、とくに、千佳の聴覚世界Ⅱ音の世界が垣間見られた部分を報告したい。

●「調査」の概要

千佳に聞き取り調査をするといっても、普通の会話で彼女の内面を聞き取ることがなかなか難しいのは分かっていた。そこで、まず準備として、千佳がパソコンに文字を

入力することで、こちらの聞きたいことに答えられるように、アンケートを作成した。

インターネット上で「Googleアカウント」を取得し、無料の「Googleフォーム」を使えば簡単にネット上でアンケートの質問が作成できるし、回答者もネット上でアンケートにアクセスして手軽に回答することができる。しかも、Googleフォームで作ったアンケートは見た目にきれいで、選択式の質問にはマウスクリックで回答できるため、千佳が楽しくアンケートに取り組めるのではないかと考えた。また、私にとつては、回答の閲覧や整理がパソコンで簡単にできるというメリットもあった。

しかし、こちらが一方的に考えた質問に文字で回答してもらうだけでは、やはり内容が限定されてしまう。そこで、第1段階のアンケート回答のあと、第2段階として、千佳と共にパソコンの前に座り、一緒にアンケートの回答を見ながら、もう少し詳しいことを普通の会話形式で聞いてみることにした。

第1段階のネット上のアンケートには、1日も経たないうちに、千佳から回答が返ってきた。回答の内容も、単に選択式の質問にマウスクリックで答えるだけではなく、自由回答欄にも積極的に記入してあった。やはり、アンケートが視覚的に美しく、

回答がしやすかったことが良かったのか。あるいは、より根本的に、パソコンでの入力というコミュニケーションの方法が千佳に合っていたのか。

それはともかく、第2段階として会話形式で追加質問をしたところ、これも比較的にスムーズに進んだ。Googleフォームへの千佳の回答をパソコンの画面を指でさしながら話をしたため、いま何が話題になっているのか、目で確認しながら答えることができたのだと思う。質問時間は30分を越え、千佳と私が連続で会話をした時間として、記録的な長さであったと思う。千佳にはやや負担であったかもしれないが、わが娘とゆつくり会話できた楽しい時間であった。

●YouTubeを流し放つにしているわけ

質問：家で机に向かって物語やマンガを書いているとき、いつもパソコンでYouTubeを再生していますが、それはどうしてですか？

「YouTubeをかけていないと、イヤな音が耳に聞こえてくるかもしれないから」というのが千佳の回答の一つであった。どんなイヤな音かと聞いてみると、現実には外から聞こえてくる音だけではなく、心の中で鳴る音楽も入るらしい。まず、外から聞こえてくるイヤな音とは、私たちの家の前の商店街がBGMとしてかけている音楽のことであった。

これはまったく私たち親の誤算であった。この家には、6年ほど前に引っ越してきたのであるが、そのときには当然千佳の

障碍のことも分かっていたし、商店街で音楽が流れることも分かっていた。そして、発達障害の人の中に、観光地のスピーカーから流れる音楽に拒否反応を示す人が多いことも知っていた。これら3点の情報を千佳に不向きである可能性に思い至るはずであったのに、それらをつなげることはできなかった。自分たちの目線だけで環境評価をし、違った目線を考慮できないという、思慮の浅さを思い知る結果になった。

心の中で鳴るイヤな音楽については、かなり具体的に教えてくれた。なんでも、「大人向けのアニメの主題歌によく使われるト長調のビート系の音楽」がとくにイヤだそう、それを打ち消すためにYouTubeから音を流しているとのこと。実際、おそらく多くの人にとつても、一度心の中であるメロディーが流れ出すと、その後ずっとそのメロディーが心から離れないということがある。たとえば、私の場合は、「ピアノ売ってちょうだい」というセリフで始まる某CMソングが一度心に浮かぶと、そのあとずっと心の中で反復されたりする。私であれば、たとえそういうことがあつても、「なんかずっとこのメロディーが流れてくるな」と感じるだけで済む。しかし、音楽の好き嫌いが激しい人や、音楽に何かイヤな記憶を結びつけるクセがある人にとつては、イヤな音楽が心の中で流れ続けることは耐え難いに違いない。その意味で、千佳は私の経験することのない、シビアな音世界に住んでいることになる。

●いつもiPodのイヤホンをしているわけ
質問…外で道を歩いているとき、いつもイヤホンでiPodの音楽を聴いていますか、それはなぜですか？

千佳の説明によると、パソコンを離れてYouTubeをかけられないとき、iPodを手放さずイヤホンを耳に入れているのも、外から入ってきたり、心の中で鳴ったりするイヤな音を、シャットアウトするためだそうです。さらに質問をして分かったことは、イヤな音楽に対する対抗措置として、千佳は「自分にとっての敵を倒す歌」を、「勇気づけるようにして」iPodで鳴らしたりすることもあつたらしい。

そこで、「自分にとっての敵を倒す歌」はどんな歌かと聞くと、「ポピュア・テニスのオープンニングなど」という答えが返ってきた。この「ポピュア・テニス」というのは、千佳がずっと心に暖めている自作のアニメーションのことで、千佳はそこで使う主題歌や劇中歌を数年前からこつこつと作曲していた。なるほど、千佳がこれらの曲を作る理由は、将来の自作アニメのためだけではなく、今の自分の心の中を、自分にとって心地の良い音楽で満たすためだったのだ。千佳が作る音楽が、暗いもの



2月11日「けいはんなプラザ」で開催されたライブ

がほとんどなく、元気のよいものが多いのも、「自分にとっての敵を倒す歌」を「勇気づけるようにして」流すためだとすると合点がいく。そういえば、ときどき、iPodが電池切れになつて音が途絶えたとき、パニック気味になつてポピュア・テニスの歌を自分で歌っていることがある。これも、イヤな音楽が心に流れないようにするためなのだろう。

●教室から飛び出したわけ

質問…小学校の授業の時、廊下から聞こえてくる「音」や教室の中の「雑音」が先生の声と混じってしまつて、先生のお話が聞き取れなかつたことはありませんか？

いま千佳は24歳の大人で、かなり行動も落ち着いているが、小学生の時はいろいろな問題行動が多く、とくに授業中に静かに座っていることができず、大きな声を出したり、とつぜん運動場に逃亡して、ひとり遊具でひたすら遊んだりしていた。おそろしく音に対する敏感さが、そうした振る舞いの原因の一つではないかと思つていたが、そのころは千佳に直接に理由を聞くなどということができると思つておらず、今回初めて千佳にこのような質問を試みた。

すると、案の定というか、かなり具体的な回答が得られた。千佳の通つた小学校は、石川県の小さな小学校で、1学年に1クラスしかなく、そのために、異なつた学年の教室が隣り合つて配置されていて、自分のクラスで国語をやっているときに隣のクラスで音楽の授業をやっているというような

こともよくあつた。千佳が言うには、自分が2年生のときに隣の1年生のクラスから聞こえてくる「あの青い空のように」の歌声が邪魔で仕方なかつた。また、自分が5年生の時に隣の教室の6年生が歌う「歌よ、ありがとう」も、皮肉なこととても辛かつたようである。これは、歌そのものに何か問題があるということではなく、素人が歌うものなので、当然音程も外れるし、リズムも狂うことがあり、絶対音感をもっているらしい千佳にはそれが耐えられなかつたということではないか。あるいは、それらの曲に何か悪い記憶のエピソードを結びつけてしまつていたのかもしれない。

いずれにせよ、これは、私が当初思つていたように、そういう外からの音と先生の声とが混じつて先生の声が聞こえなかつたということではなく、自分にとって耳障りで仕方のない音楽が聞こえてきて、それに耐えられなかつたということらしい。確かに、そう考えると、突然、教室を飛び出して運動場に向かうという行動も説明がつく。単に先生の声が聞き取れなくて困っているだけだと、教室を出て行くまではしなくて済むからである。

●まとめ

こうして改めて千佳に聞いてみると、彼女のもつている、めくるめく音の世界が垣間見えてきた。小さいときから、親が気にならない、気づきもしないイヤな音に悩まされ続け、教室を飛び出す、パソコンでYouTubeをかけ放す、始終iPodのイヤ

ホンを耳に入れるといった対抗措置をとってきた。そうすることで、彼女の音の世界では、彼女にとって心地の良い選ばれた音楽や、自作の曲が始終流れている。彼女は、小学校5年ぐらいからパソコンで作曲を始め、それ以来何百というユニークな楽曲を生み出してきた。これらの作品は、彼女のもつ独特の音世界で流れ、そこからあふれ出してきたものであり、かたわらの我々は幸いにもそれに接し、彼女と共に癒やされ、「勇気づけ」られてきた。

今回のアンケートで印象的であつたのが、かつてイヤであつた曲のいくつかは、「もう慣れた」ため「イヤではない」と彼女が強調していたことである。たとえば、ト長調のアニメソングや「歌よ、ありがとう」はもう大丈夫だそうである。もちろん今でもイヤな曲が多くあるはずだが、かつてイヤであつた曲がもう大丈夫ということを実感できているということは、現在イヤだと思つている曲に対し、少し距離を置けるようになってきているということではないか。つまり、曲に対してイヤだと思つているその嫌悪感が、絶対的なものではなく、時間や状況と共に変わる相対的なものとして意識できているのではないだろうか。こうした意識を積み重ねること、いわば、自分と世界の関係についての知識を積み重ねることが、彼女の独特な音世界に起因する困難を和らげつつあるのではないか。楽観的すぎるかもしれないが、私はそこに、彼女がこれまで経験を重ね、今後も経験を重ねていくことの一つの意味を見出したい。

京扇子「風神雷神」が完成

京扇子「風神雷神」は、俵屋宗達作の国宝『風神雷神図屏風』を所蔵する臨済宗大本山建仁寺の小堀泰巖管長から頂いたご揮毫と天才アートのKYOTO所属作家・三津田二輝の『平成風神雷神』の2作品をデザインし、天才アートKYOTOと京扇子の老舗・宮脇賣扇庵とのコラボにより京扇子に仕上げたものです。プレゼントや進物に最適な商品として好評です。



コラボ企画／京団扇無料配布

京都の中小企業やNPOを応援されている京都職人プロジェクト（中京区）様の企画と、精密機械部品や最先端の装置開発を手掛けておられるHILLTOP様（宇治市）の製作費全額寄付により、当機構所属作家の長村駿さんの作品画像を起用した京団扇が完成。「天才アートKYOTOの応援」と「京都の暑い夏を涼しく」との思いで、6千枚を無料配布。



〈配置・配布場所〉

7月9日現在、予定を含む。順不同・全数配布終了の場合もあります。

京都マルイ（四条河原町）
京都市河原町三条観光情報コーナー（中京区）
京都三条会商店街事務局（中京区）

ふたば書房ゼスト御池店（中京区）
京都市動物園（左京区）
京都国際マンガミュージアム（中京区）
京都リサーチパーク（下京区）

会員・寄付を募集しています

天才アートKYOTOは、当機構の趣旨や活動に賛同していただける会員を募集中です。会員は「正会員・賛助会員・名誉会員」の3種類。また、寄付金や助成金、障害者アトミュージアムKYOTO設立支援基金などのお申し込みも随時受け付けています。

詳しくはホームページに掲載しています。お手続きもインターネットで行えますので、ご協力をお願い致します。

<http://tensai-art.kyoto>

〈編集後記〉

「アドルフ・ヴェルフリ二萬五千頁の王国」と銘打った大規模な回顧展が、兵庫県立美術館（1月11日～2月26日）と東京ステーションギャラリー（4月29日～6月18日）で開催され、大きな反響を呼びました。アウトサイダー・アート／アール・ブリュットの芸術家として世界的に高く評価されながらも、日本ではほとんど知られていなかったアドルフ・ヴェルフリ「1864-1930」は、日本で初めての大規模な個展開催によって、躍脚光を浴びることになりました。当機構が6月3日に開催した第3回企画展のシンポジウムでも、甲南大学の服部正先生がアドルフ・ヴェルフリを取り上げられ、日本におけるアール・ブリュットの概念との違いが指摘されました。

まだまだ歴史の浅い分野で、これからさまざまな研究や分析がなされていくことになりそうですが、天才アートKYOTOも障害者アートの支援と研究の両面から、この分野の発展や社会的認知度向上に寄与していきたいと考えています。

【表紙の作品について】

若林は、刻々と増殖し、さまざまに変化する模様状の描画を連続させていく。その後、多彩な色調を丹念に塗り分けていく。本作では画面の下側から描き始め、タイトルの通り次第に上部へ広がっていき、最上部の放射状の「空」で完結した。若林は、作品が完成するとほほすべてに自らタイトルを付すが、制作途中で尋ねると「まだわからない」と答える。つまり、そのイメージは作品を描きながら次第に形成されていくのではないかと思われる。



『始まりの海と終わりの空』
若林 義輝 Yoshiki WAKABAYASHI 色画用紙・色エンピツ 540x394mm 2017年

会報の広告主募集中！

『会報 天才アート』は、当機構の活動をはじめ、所属作家の作品紹介、障害者アートに関するコラムなどを掲載しています。発行部数は3,500部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館、京都市内の大学やギャラリー、カフェなどに配布・配架をしています。

当機構の活動にご賛同いただける企業様や団体・組織のご協力を、ぜひともよろしくお願い致します。

1枠…1万円（4回掲載）

●お問い合わせ・お申し込みは、
info@tensai-art.kyoto.kb

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
(株)共立ホーム
エンジニアリング
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

Kuretake

明治安田生命
京都支社
京都市中京区烏丸通御池上ル二条殿町 552
075-241-4811

京都上鳥羽の印刷会社
(有) 森田美術印刷
京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭
養徳院
永代供養のお寺 075-461-2898

吉村建設工業 (株)
京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

発展、ともに前へ...
洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院